



まちづくり活動を始めたきっかけや、その輪を広げるための秘訣などを紹介します。

「何かしたいけど、始めるきっかけがつかめない」「活動はしてるんだけど、仲間を増やしたい」。参画と協働の最前線である市民活動センターでは、「アクセスしてきた人を、手ぶらで帰さない」を合言葉に、やりたいことやライフスタイル、考え方などを聞いて、一人ひとりに合った団体に関する情報を提供したり、実際

“まちづくり情報”の宝庫！ 「市民活動センター」

につないだりしています。すでに活動を始めている人については、助成金などのお役立ち情報も紹介しています。今年4月から指定管理者制度を導入し、市民目線で、きめ細かなサービスをめざす市民活動センターで、あなたも「新しい生き方」や「素敵な出会い」を手に入れません。



登録グループ紹介コーナー

問合せ 市民活動センター ☎ (759) 1826

消費生活センターに寄せられる相談内容や、安全で安心な消費生活を送るためのミニ知識などを、シリーズで紹介していきます。

地上デジタル放送に便乗した 悪質商法に気をつけて！

消費生活
センター
だより

おばあちゃんの家のテレビ、まだアナログ放送のままやなあ。このままやったら来年7月には見られへんようになるよ。

地デジやろ？そろそろテレビ買い換えよか？

テレビもまだ使えそうやから、チューナー（受信機）だけ付けたら見られる場合もあるらしいよ。

へえーそうなんや。でもこの前セールスマンが訪問してきて「3,000円出せばアナログ放送が10年間延長できる」とか「テレビを見るためには必ずケーブルを引かんとあかん」とか言ってたけど…。

それは悪質な訪問販売やから信じたらあかん！

※行政機関や放送事業者が視聴者宅を訪問し、工事に理由に現金を要求することは一切ありません。

地上アナログ放送は2011年7月に終了します。
＜地デジの相談窓口＞
・総務省地デジコールセンター ☎ 0570 (07) 0101
(IP電話の場合は ☎ 03 (4334) 1111)
・デジサポ兵庫 ☎ 078 (330) 0101



おとなも子どもも 食と育つ

今回は学校給食の話です。

学校給食のはじまり

今のような形態の学校給食は、戦後の混乱期における栄養不足の改善を主な目的としてスタートしました。当初はアメリカの援助による脱脂粉乳や小麦粉などを使用した給食でしたが、昭和29年に学校給食法が成立し、学校給食は教育の一環として正式に位置付けられました。当時の献立はパンとミルク、おかずの組み合わせでした。

日常の食生活にも影響が

学校給食は1年間に約180回。これは1年間に食べる食事回数の6分の1程度にしか過ぎません。しかし、学校給食で知った大好きな料理を親に作ってもらったり、自分が親になった時に子どもに作ったり…と、学校給食で出会った料理が次世代に引き継がれ、家

庭での食生活に少なからず影響を与えていることが明らかになっています。つまり、現代の「食の欧米化」と学校のパン給食は無関係ではないと言えます。米の消費量が減り、肉や卵、乳製品などの畜産品や油脂などの消費量が増え、いわゆる「生活習慣病」になりやすい食生活が浸透したわけです。

米飯給食の導入

これらの問題に対応するため、国は学校給食に正式に米飯を導入。徐々に米飯給食の回数が増える中、おかずの内容も変化してきました。魚の煮物など、和食メニューの登場です。しかし、パンが主食の日に和食のおかずというミスマッチな組み合わせは決して好ましいものではなく、主食も含めた献立の充実が必要となったのです。

完全米飯給食へ

今年の9月から、市の学校給食も、完全米飯給食（ほぼ毎日米

今回の担当：学校教育室学務課

飯給食）となりました。完全米飯給食を導入した理由として、大きく次の3つが挙げられます。

- ① 油脂依存型食生活を改善し、児童の心身の健全な発達を促進
- ② 安定した需要の確保により食料自給率改善や耕地保護が可能
- ③ 輸入に頼る小麦から国産米を使うことで「地産地消」を推進

食生活に良い影響を与える学校給食へ

「食育基本法」に基づく「食育推進基本計画」でも、学校給食の子どもたちの食育に果たす役割が重要視されています。上記の理由を保護者の皆さんや子どもたちに伝え、米飯給食を充実させていくことにより、これが体に良いというだけでなく、環境問題や国際的な食糧需給を考えるきっかけとなるなど、学校給食そのものが「生きた教材」になると言えます。これこそが食育として、食生活全体に良い影響を与えるものと考えます。

いし押し！ 問合せ 市立川西病院 ☎ (794) 2321 地域医療連携室

川西病院

レントゲンで透視しながら 胆管などの「内視鏡治療」を

黄疸（おうだん）や肝機能障害が起きたとき、総胆管結石症や膵臓癌（すいぞうがん）、胆管癌などが原因となって胆汁の流れを悪くしている場合があります。

当院ではこのような胆膵疾患の人を対象に、レントゲンで透視しながら行う内視鏡治療（胆膵内視鏡）に取り組んでいます。

以前は、総胆管結石症は外科的に腹部を切開する手術（開腹術）で治療していましたが、現在では

内視鏡で結石を除去できるようになりました。

また、結石が胆管にはまり込んだ場合は、急性閉塞性化膿性胆管炎や胆石膵炎を生じ、命に関わることもあるため、その日のうちに緊急の内視鏡治療を行っています。

腫瘍（膵臓癌や胆管癌など）による閉塞性黄疸は、腫瘍生検、細胞診という診断と同時に黄疸を軽減させる処置としてチューブを入

れた上で、手術可能な人は手術を行っています。

皮膚が黄色いとか、肝機能障害を指摘された人は重大な病気が隠れている可能性がありますので、速やかに受診してください。詳しくは地域医療連携室にお尋ねください。



人権啓発シリーズ

生きる

近畿大学人権問題研究所の熊本理抄さんにインタビューする機会があり、彼女の素直な人柄と話に感銘を受けた。熊本さんは大学4回生の時、カナダに1年間留学し、現地の小学生に日本文化を伝えた。ところが、子ども達は日本のおもちゃなど

より、日本から来た熊本さん自身のことに興味を示した。でも、彼女は自分自身のこと答えられなかった。カナダでは先住民や外国人の中で、幼いころから「自分って何？」を学ぶのだそうだ。彼らとの出会いを通じて、心から語り合うことの大切さを学ぶ。自分が被差別部落の出身であることをカミングアウトした時、「そんなこと気にしてないよ。人間はみんな平等だよ」とよく言われるのだそうだ。

この言葉、相手に対する思いやりのように聞こえるが、そうではない。本人は、このことを一緒に考えてほしいと思っているのに、この言葉で、この話はなかったことにされたような気になるという。また、人類の歴史の中で、すべての人が平等だったことは一度も無い、と話す。さまざま

心から語り合うということ ～気にしてよ！一緒に考えてほしい～

る現代社会の中で、自分が自分らしくどう生きていくのか。そのためにこそ、それぞれの思いや立場を、本音で心から語り合うことが大切だということなのだ。「気にしてよ！」今、熊本さんは各地の部落の女性の話聞き書きしている。そして「私が私として生きていくために、部落が大切な存在になっている」と。そう語る目は、きらきらと輝いていた。（ラジオパーソナリティ 谷五郎）

